

復習シート 第四学年 国語



組
番号
名前
模範解答

【物語を読んで答える問題】

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

親子の銀ぎつねは、ほら穴あなから出ました。子どものほうは、お母さんのおなかの下へ入りこんで、そこから真ん丸な目をぱちぱちさせながら、あっちやこっちを見ながら歩いていきました。

やがて、ゆくてにぼつとり、明かりが一つ見え始めました。それを子どものきつねが見つけて、

「母ちゃん、お星様は、あんな低い所ひくにも落ちてるのねえ。」
と聞きました。

「あれはお星様じゃないのよ。」
と言って、そのとき、母さんぎつねの足はすくんでしまいました。

「あれは町ちの灯あかりなんだよ。」
その町の灯を見たとき、母さんぎつねは、あるとき町へお友達ともだちと出かけて行って、とんだめにあったことを思い出しました。およしなさいって言うのも聞かないで、お友達のきつねが、ある家のあひるをぬすもうとしたので、お百ひゃくのように見つかって、さんざ追いまくられて、命いのちからがらにげたことでした。

「母ちゃん何してんの、早く行こうよ。」
と、子どものきつねがおなかの下から言うのでしたが、母さんぎつねはどうしても足が進まないのです。

（出典 新美南吉 「手ぶくろを買いに」）

1) 子どものきつねは、町ちの灯あかりを見て、何と間まちがえたのでしょうか。

三字で書きぬきましょう。 **レベル6**

**お
星
様**

「町の灯」の前にある、「あれ」が指し示している言葉を探します。

「あれはお星様じゃないのよ。」 「あれは町の灯なんだよ。」という

母ぎつねの言葉から、「お星様」が答えとなります。

(2) 母さんぎつねの足がすくんでしまったのはなぜですか。もっともふさわしいものを、次の1〜4の中から一つえらびましょう。

レベル7

- 1 子どものきつねが、お星様が低い所に落ちていると言ったことにおどろいたから。
- 2 あるとき、母さんぎつねが、ある家のあひるをぬすもうとしたところを見つかったしまい、がっかりしたことを思い出したから。
- 3 あるとき、お友達のかつねが、ある家のあひるをぬすもうとしたところを見つかった。命からがらにげたことを思い出したから。
- 4 あるとき、お友達のきつねが、言うことを聞かずにあひるをぬすもうとしたことにはらが立ったことを思い出したから。

3



「足がすくむ」とは、緊張や恐怖で足がこわばって動けなくなること。母さんぎつねが町の灯を見た時に思い出したことを読み取りましょう。思い出したことは、「母さんぎつねの足はすくんでしまいました。」の後に書かれています。

- 1は、おどろいたからではないので不正解。
- 2は、「母さんぎつねが、ある家のあひるをぬすもうとした」が間ちがい。
- 3は、正解
- 4は、「はらが立った」わけではないので不正解。